



新年のごあいさつ



蒲郡市長
稲葉正吉

あけましておめでとうございます。

市民の皆さんにおかれましては、健やかな新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日ごろから市政に対するご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

市長6年目の本年も、「夢と希望に満ちた、明るく輝く元気な町」を目指し、「堅実な行財政運営」、「産業の振興・働く場の確保」、「安全で住みやすい、魅力ある町づくり」の3つの施策を、一歩ずつ誠意をもって、全力で進めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本年の大きな話題の一つとして、7月にセーリング・テザー級世界選手権が、10月にセーリングワールドカップがここ蒲郡で開催されます。この2つの国際大会を通して、蒲郡の名を国内のみならず全世界に発信し、まち・海の美しさを多くの方に知っていただき、観光のまち蒲郡への追い風となる大会になるよう、選手および関係者の方々をお迎えする準備を進めてまいります。

また、住みよい町であるためには、子育て支援の充実が重要であると考えております。28年度から新たに、子育ての悩みなど何でも相談できる「子育てコンシェルジュ」、働くお父さんお母さんを支援するため、風邪などの病児を託児所に預けることができる「病児・病後児保育」などの事業に取り組んでいます。子どもの健やかな成長をサポートできるよう、子育て支援事業を推進してまいります。

都市基盤整備の面については、地域産業の発展と都市施設の充実が、市民生活の利便性向上において最重要課題だと考えております。今秋、国道247号中央バイパスが全線開通する予定でございます。これにより、蒲郡の中心市街地の渋滞緩和や観光の発展、西浦・形原地区から市民病院への時間の短縮などの良い変化が期待されます。また、現在、着々と整備が進んでおります、国道23号蒲郡バイパス東部区間の早期完成を引き続き国・県へ強く要望してまいります。

また、一部供用開始されました三河港蒲郡地区のマイナス11メートル岸壁の早期全バース完成を目指し、引き続き国・県に働きかけてまいります。昨年は、開港50周年を迎え、さまざまな記念事業を通して、皆さんに蒲郡の港の魅力と重要性をお伝えすることができました。記念事業の一環として、初めてクルーズ客船「ぼしふいっくびいなす」が寄港いたしました。そして今夏、同客船の再寄港が決定しています。港の活性化は、市全体の活性化に必ず繋がると確信しております。蒲郡の港が、これまで以上に物流港として活用され、観光の港としてもにぎわうよう、今後もクルーズ客船を積極的に誘致してまいります。

最後になりますが、今年1年が皆さんにとりまして、輝かしい年となりますことを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。